

令和6年度  
全国高等学校総合体育大会  
サッカー競技大会

田口 新（岡山県）

# MENU

○大会概要と派遣期間

○割当

○試合の振り返り

○大会を通じたの振り返り

## ○大会概要と派遣期間

大会名：令和6年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

開催地：福島県 Jヴィレッジ他

派遣期間：令和6年7月26日～28日（1.2回戦）

大会テーマ：主審と副審の協力

## ○割当

日付	対戦カード	役割	INS
7月27日	柳ヶ浦vs帝京長岡	副審1	酒井昭寛氏
7月28日	帝京安積vs昌平	主審	野田祐樹氏

# ○試合の振り返り

## 副審

インストラクターのコメントより  
ラインキープとオフサイドの見極めは問題なかった。  
主審のポジションを確認しながらファウルサポートを行えた。

## 自身による振り返り

帝京長岡の監督さんとは終始コミュニケーションを取りながら（ガス抜きのような感覚）行った。今回は大きな出来事は無かったが、話し過ぎることによって付け込まれることもリスクを考えながら今後のAR1としての任務をこなしたいと思った。四審はユースの子で緊張やバタつきがあったが、自身の経験をもとに落ち着いて確実に四審の役割を果たせるように声掛けや手助けを行えた。

# ○試合の振り返り

## 主審

インストラクターのコメントより

判定は終始安定していて問題なかった。

試合の立ち上がりから手の不正使用を的確に判定したことにより基準を示した。

的確な予測もとの動き出しは今後も継続したい。

クイックリスタートを妨害しようとしている選手の動きを早く察知すること。ボールの前に立った後にコントロールするのでは遅い。

自身による振り返り

開催県と優勝候補の対戦であり、ウォーミングアップから選手やチームを観察し、立ち上がりから両チームともアグレッシブに攻撃してくることを予想しながら前半を迎えた。予想通り激しい攻防から始まったので正しい判定を下すことを大切に、動きとポジショニングを意識して行った。

後半終盤になるにつれてGKを含め選手たちの疲労からの負傷が続出したが、手間取ることなく担架の要請や役員入場などにより、止める時間を最小限にすることを意識しながら行えた。

## ○大会の振り返り

この度は、高校総体に派遣していただきありがとうございました。  
今大会ではユース審判やU22審判員など若手審判員の起用が目立ち、同時に今まで私が見てきた諸先輩方による審判チームや大会を引っ張る姿を思い出し、24歳も若くないと思いつつ、自分にもその役割が求められてきたと感じながら過ごした大会期間でした。

リーダーシップがある性格ではありません。だからこそ他の審判員との試合以外での過ごし方や交流、映像分析やお風呂の時間を大切にしました。

ピッチ内外で学びの多い充実した時間を過ごすことができました。

最後に、大会期間中は地元福島の関係者の皆さまには大変お世話になりました。  
円滑な運営と多大なるサポートに感謝いたします。

3.11によって原発事故の対応拠点となったJヴィレッジ。今では美しい芝生が戻り、人々の活気が帰ってきました。福島県の更なる復興と発展を願い、サッカーができることに感謝して今後も頑張ります。





令和 6 年度  
全国高等学校総合体育大会  
サッカー競技大会@福島  
2024 年 7 月 29 日～31 日

岡山県：山本雄大

## はじめに

この度は、

令和 6 年度全国高等学校総合体育大会に推薦、派遣して  
いただきありがとうございます。

大会が行われるにあたり、2 回の事前研修が行われました。

## 大会について

全国から 52 校が参加しました。

北海道(2)東北(7)関東(10)北信越(5)関西(7)

東海(4)中国(5)四国(4)九州(8)

## 【大会を成功させるために】

主審と副審との協力：最適なコミュニケーションについて

- ・主審が本当に求める副審の援助とは？
- ・副審が伝えなければならない情報とは？
- ・効果的なフラッグアップのタイミング、場面とは？
- ・主審と副審との協力関係が周囲（選手、ベンチ役員、観客など）に有効な影響を及ぼす手法となる。

このテーマを意識し、私は2試合担当させていただきました。

3回戦(7/30)仙台育英(0-6) 神村学園

### 【審判団】

主審：北海道 堀氏、副審2：東京 筒井氏、

4th：山形 宍戸氏

副審1を担当させていただきました。

振り返りでは様々なアドバイスをいただきました。

### 【良かった点】

- ・サイドステップを 70 分間意識してゲームに入っていることがうかがえた。
- ・オンサイド、オフサイドの見極めではしっかりとラインキープをして正しい判定に持っていくことが出来た。
- ・主審とアイコンタクトをしてタッチジャッジなど差し違いがなく「協力」という面での良いチームワークが見れた。

### 【改善すべき点】

- ・ベンチとのコミュニケーションの際、監督・コーチとの会話が長く見受けられたが副審としての任務を今一度確認し、端的に会話を終わらすこともマネジメントの面では大切なことである。

準々決勝(7/31)市立船橋(0-1)米子北

**【審判団】**

副審1:静岡 川田氏、副審2:福岡 中村氏

4th:兵庫 大槻氏

主審を担当させていただきました。

両チームともフェアでかつタフなゲームが展開されました。

負傷者も出ず、両チームともノーカードというゲームとなりました。

振り返りでは様々なアドバイスをいただきました。

**【良かった点】**

・持ち前のスプリント、ロングスプリントなど切り替えの面で力強い走りを70分間発揮されていた。

特にATに入った際のカウンターでの走りは説得力のあるポジショニングに最終的に行きつき、良い位置で判定できていた。

- ・ファウルのシーンではファウルをした選手を引き出して注意し、抑止力という面では良いマネジメントとなり結果的にノーカードで試合を終えることができた。  
今後に繋げてほしい。

### 【改善すべき点】

- ・予測という面では2個目までは意識して動いているが、3個目、4個目も意識することで、視野の確保とスムーズな切り替えができ、予測しゲーム展開をもっと読み取ることができる。
- ・サイドステップ、バックステップを幅広く使うことで走らなくても争点に近づきもっと落ち着いて判定ができる。
- ・ホールディングのファウルに少しバラツキが見えたが、ファウルをされた選手がプレーする影響度を見てほしい。  
もっとさせてもいいと思う。



## まとめ

今回、

このような大会に参加させていただきありがとうございました。

私自身、この大会に参加させていただくことが決まり、緊張していました。

中国からの推薦ということもあり、

名に恥じないようにしっかりと吸収するという思いで現地入りし、全国の審判員とコミュニケーションを取り連携を図りました。

この大会で吸収したことを地域に戻りしっかりと還元し、今一度頑張っていきます。